

総務省は10月8日、テレビ放送における2013年度の字幕・解説・手話放送の実績を公表した。総放送時間に占める割合は、字幕38.1%（前年度比2.0%増）、解説1.6%（0.4%増）、手話0.1%（増減なし）だった。

事業者別の字幕放送時間の割合は、NHK総合72.3%、NHK教育54.5%、在京キー5局52.3%、在

阪準キー4局47.5%。

解説放送は、NHK総合8.9%、NHK教育12.0%、在京キー5局と在阪準キー4局が各2.0%。手話放送は、NHK総合0.2%、NHK教育2.5%、在京キー5局と在阪準キー4局が各0.1%だった。

（福祉新聞・第2689号 2014年10月20日）